



みんなで作る！東京の野生生物目録

東京いきもの調査団

TOKYO Digital Wildlife Inventory

2025 活動レポート



東京いきもの調査団

ってなに？



奥多摩の山地や丘陵地の里山、市街地の緑地や水辺、島しょ部など、多様で豊かな自然を有する都市、東京。

このような多様な自然環境において、日々変化する野生生物の現状を専門家だけで把握することは困難です。

そこで、東京都・専門家・都民が一体となり、デジタル版野生生物目録「東京いきもの台帳」を作成する「東京いきもの調査団」が2023年度に始動しました。

「東京いきもの調査団」では、調査に参加してくれる皆さん一人ひとりが調査員です！

アプリなどを通じて都内の野生生物の情報を集めることで、リアルタイムで網羅的な生物多様性データの収集・蓄積を目指しています。

これからも多くのおみなさまのご参加をお待ちしております。

市民の皆さんによる調査



市民科学



都民のみなさんと一緒に、いきものコレクションアプリ「Biome」でいきものの生息・生育情報を集めています。専門家の方々による種の同定などの検証を経て、台帳に掲載されていきます。
同定…種名が正しいかの確認

全調査期間

2025年4月1日～2026年3月31日

参加者数

15,988人

全投稿数

162,055件

特別調査期間

夏編

2025年 7月10日～ 9月16日

全投稿数

秋編

2025年10月15日～12月15日

127,367件

専門家の皆さんによる調査



標本



東京都立大学牧野標本館所蔵



各地の標本庫等に収蔵されている東京都産の標本から、いきものの生息・生育情報を集めています。

標本収集レコード数

● 植物 : 115,840件 ● セミ科 : 239件
● トンボ目 : 2,858件 ● クモ目 : 3,322件



文献



専門家の方々に推薦いただいた専門雑誌や学術書などに記載されているいきものの生息・生育情報を集めています。

文献収集レコード数

● トンボ目 : 5,186件 ● クモ目 : 22,353件
● セミ科 : 1,615件



観察記録



専門家の方々から提供いただいた調査記録や写真などに基づく、いきものの生息・生育情報を集めています。

収集レコード数

● トンボ目 : 3,127件
● クモ目 : 14,898件

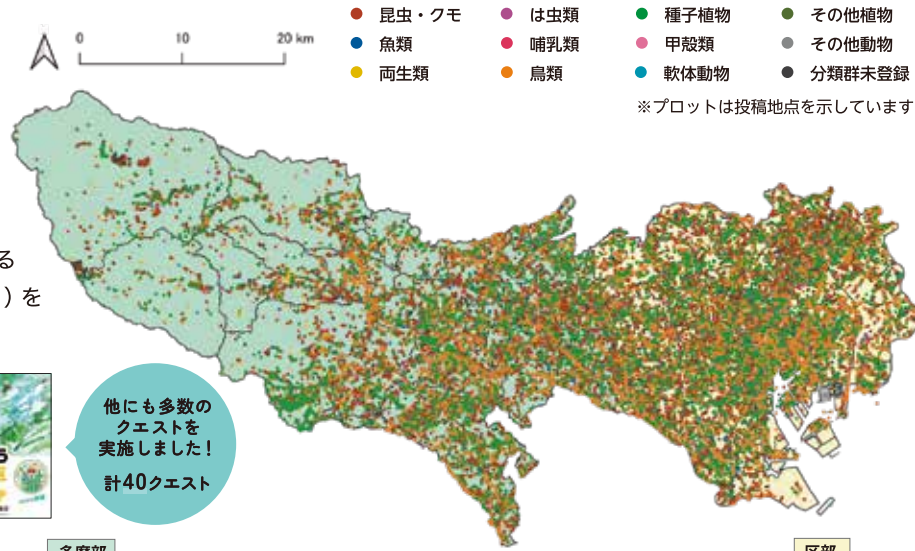
多摩部・区部のいきもの調査

東京都の地形は、大きく「山地」「丘陵地」「台地」「低地」「島しょ」等に区分され、そこに広がる自然景観や生態系も、それぞれの地形ごとにまとまった特徴を持っています。

市民調査では、多摩部と区部、島しょ部でそれぞれの自然を体感しながら調査する特別にテーマを設定した調査(クエスト)を行い、広く情報収集を行いました。



他にも多数のクエストを実施しました！
計40クエスト



多摩部

山地や丘陵地、台地など地形の変化に富み、農村部も含めた豊かな自然が残る地域です。日本固有種のタヌキやヤマユリ、林内ではヒグラシ、水辺ではカワセミやハグロトンボなど、里山を象徴する多くのいきものが確認されていました。



区部

ビル街のイメージが強いですが、都市公園などの緑地やビオトープなどの水辺・湾岸部の干潟などの自然が点在します。公園や水辺ではアオモンイトトンボ、オナガなどが見られたほか、外来種ではナガミヒゲナシやハクビシン、クマゼミ(国内外来種)なども確認されました。



島しょ部のいきもの調査

伊豆諸島



小笠原諸島



伊豆諸島では、シマヘビの黒化個体(体色が黒く変化した個体)である「カラスヘビ」が確認されました。伊豆大島に生息するシマヘビは、ほとんどがこの黒化個体であることが知られています。また、大島の火山活動の跡地では、植生遷移の初期段階で見られるハチジョウウイタドリも確認されました。

「東洋のガラパゴス」と称される小笠原諸島では、近海では見ることができないアオウミガメやナガスクジラ、小笠原固有亜種であるオガサワラハシナガウグイスなど、島しょならではの特徴的ないきものが確認されました。





東京の外来種

について知ろう



「外来種」とは、本来の分布域外から人為的に導入された生物を指します。

中でも生物多様性を脅かす「侵略的外来種」は、自然状態では起こりえない甚大な影響をもたらすことがあるため、優先的な対策が必要です。

東京都では、東京の特性をふまえた具体的な対策方針を示した「東京都外来種対策行動の手引き」等を活用し、ネイチャーポジティブの実現に向けた効果的な取組を進めています。



外来種対策リストや
外来種対策行動の手引きなど



詳細やダウンロードはこちら ▼

https://www.kankyo.metro.tokyo.lg.jp/gairaisyu/list_book

東京から始める、外来種対策の実践によるネイチャーポジティブ



知ってる？ TOKYO 外来種対策 3 & 3

スリー アンド スリー

これまでの外来種対策は普及啓発が中心でしたが、今後は早期発見と適切な防除により、侵入・分布拡大を阻止する「対策の実践」のフェーズへ転じる必要があります。

東京都では、従来の「外来種予防 3 原則」に加え、独自の「外来種対策行動 3 原則」を新たに提唱しています。

みんなで実施！ TOKYO 外来種対策 3 & 3

外来種被害予防

3 原則

- ① 入れない
- ② 捨てない
- ③ 拡げない



外来種対策行動

3 原則

- I いち早く 見つける
- II 被害を 減らす
- III 取組を 広げる

地域の特性に適した外来種対策を協働と連携により効果的に実践し、取組を広げていく

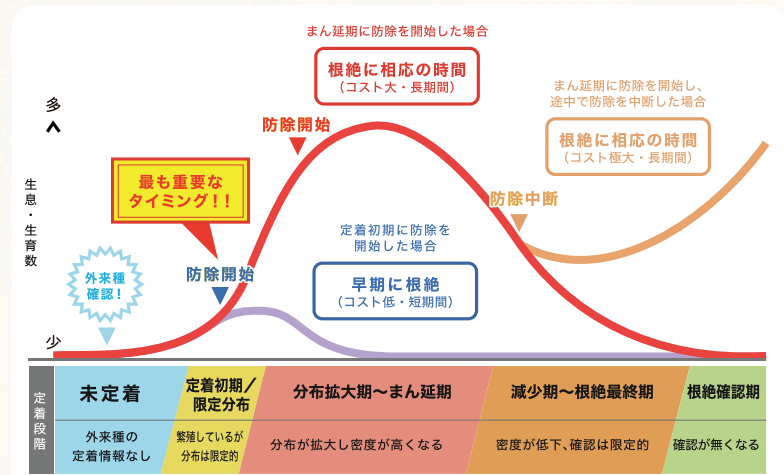
対策のタイミングを逃さない！

外来種対策は、早く見つけて、早く対策を行うことが何より大切です。

特に「定着初期／限定分布」の段階で、植物であれば抜き取りや刈り取り、動物であれば捕獲や卵・幼生の除去などの初期防除を行えば、少ない労力とコストで高い効果が期待できます。

こうした重要なタイミングを逃さないように、対策場所における対策種の定着段階をしっかりとモニタリングすることが大切です。

引き続き、TOKYO 外来種対策 3 & 3 の実践に、ご協力ください。



外来種の定着段階と防除開始時期による対策効果のイメージ

※外来種被害防止行動計画(環境省・農林水産省・国土交通省2015)を参考に作成

参考：東京都外来種対策行動の手引き



みんなでパトロール！市民科学を活用したモニタリング



専門家と行政だけでは、広域でのモニタリングには限界があります。そこで、野生生物の情報を広く集めるため、市民参加型の調査として、外来種をテーマとしたクエスト(アプリ調査)を実施しました。アプリユーザーが投稿する仕組みにより、侵入の早期発見や分布拡散に関するビッグデータを収集しています。皆さんの投稿の一つひとつが、外来種の対策に役立っています。



ワカケホンセイインコ



海外由来 # ペットとして人気
野外に逃げ出して拡大
これからも情報収集が大切

© 隆爺

ペットとして輸入されたものが野生化したといわれています。23区の台地部で多く確認されたほか、多摩エリアでも投稿がありました。隣接する神奈川県では、相模原台地でも確認されており、隣県からの侵入・定着が心配されています。在来の鳥類と営巣の場所をめぐって競合してしまう可能性があり、これからも情報を収集し、対策を検討する必要があります。



● ワカケホンセイインコの投稿地点 (Biome アプリ)

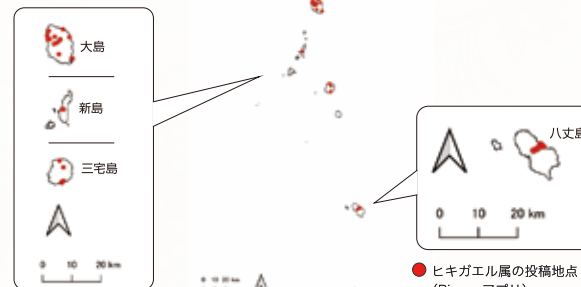
伊豆諸島におけるアズマヒキガエル



本土部では希少種でも伊豆諸島では外来種
昆虫等を捕食し島固有の生態系に影響
モニタリングで適切な防除を推進

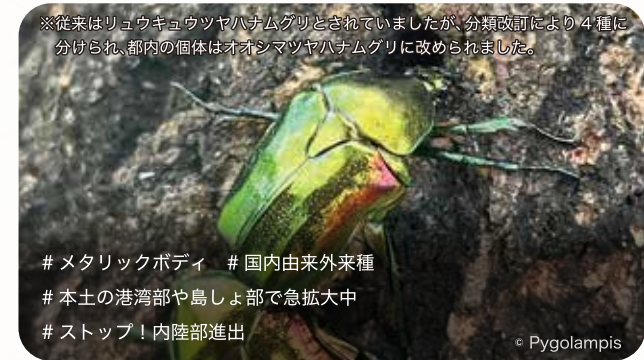
© wumi

本土部では希少な在来種ですが、島しょ部では生態系を脅かす外来種です。調査により伊豆諸島各地で生息が確認され、改めて問題が可視化されました。天敵の少ない島では高密度化しやすく、昆虫等の捕食を通じて固有の生態系へ深刻な影響を及ぼすため、継続的な監視や繁殖期に成体や卵塊を取り除くなど防除が重要です。



※本土部ではアズマヒキガエルとニホンヒキガエルの交雑が問題になっています。それら2種やその交雑種は写真のみでの区別は困難であり、本図ではまとめて『ヒキガエル属』として表示しています。

オオシマツヤハナムグリ



※従来はリュウキュウツヤハナムグリとされていましたが、分類改訂により4種に分けられ、都内の個体はオオシマツヤハナムグリに改められました。

メタリックボディ # 国内由来外来種
本土の港湾部や島しょ部で急拡大中
ストップ！内陸部進出

© Pygolampis

美しい金属光沢が特徴のオオシマツヤハナムグリ(旧称リュウキュウツヤハナムグリ)は、南西諸島原産の国内由来の外来種です。貨物等に紛れて侵入したとされ、現在は関東地方の港湾部や島しょ部で分布を急拡大させています。在来種との競合や幼虫のフンによる土壌環境への悪影響が懸念されており、内陸部への侵入を防ぐためにも、モニタリングの継続や拡散防止の徹底が重要です。



● オオシマツヤハナムグリの投稿地点 (Biome アプリ)

東京都植物目録

について



東京都には、雲取山の亜高山帯から多摩山塊の冷温帯、多摩丘陵から伊豆諸島の暖温帯、小笠原諸島の亜熱帯に至る、様々な気候・環境に生育する植物がみられます。

しかし新たな外来種の侵入や気候変動、開発などの影響に伴い、都内各地の生物相は急速に変化しつつあります。

東京都の生物多様性を保全するためには、植物相の現状を把握するだけでなく、標本等の記録から過去の植物相とその変遷過程を探ることが求められます。



東京都植物目録(暫定版)を公開!



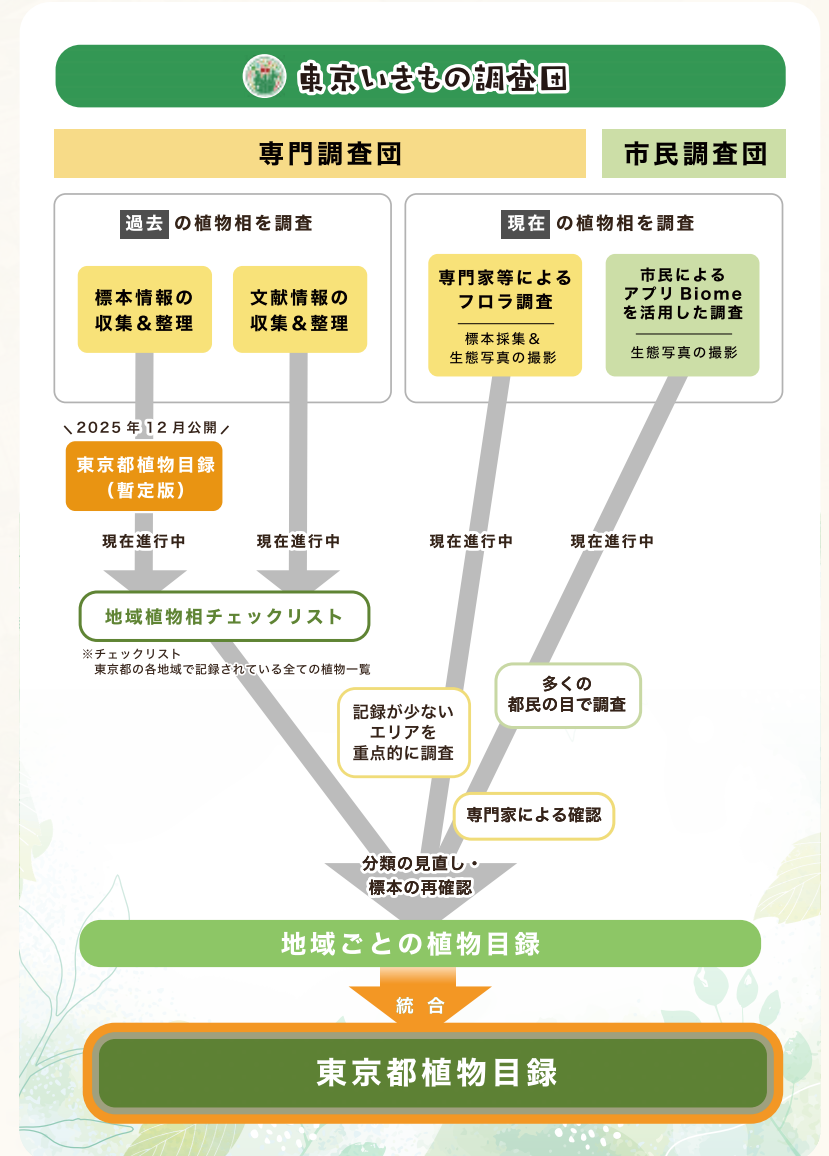
植物目録の これまで、これから

植物目録では、まず「過去の植物相」として各地の標本情報の整理を進め、2025年12月に暫定版を公開しました。

2025年12月現在で、植物標本情報の一部(115,840件、4,179種)を収録しています。

現在は、標本情報だけでなく、各種の情報を網羅した「東京都植物目録」の構築を目指し、現地調査や情報整理を継続しています。

専門家が都内各地に実際に行って植物を採集し、標本を作るとともに生態写真の記録も集めたり、東京都の各地域でこれまでに作られた植物リストを収集してデータベース化するなど、植物目録の構築に向けて多岐に渡る作業を進めています。





古い情報から新しい情報まで活用！



高度に開発された市街地の印象が強い東京ですが、亜高山帯の山域から低地の沿岸部まで多様な地形や水系に基づく自然を有し、さらに伊豆諸島や小笠原諸島の島々には固有性の高い植物も生育しています。東京都は「いつ、どこで、どんな植物が生育していたのか」を把握できるデジタル版の東京都植物目録の作成に取り掛かり、2025年12月に暫定版の公開に至りました。

標本報知

唯一無二の存在！植物標本の役割

植物標本は、その特徴をもつ植物がその場所に生育していたという、科学的に不可欠な「現物の証拠」です。蓄積された標本は、絶滅した種や外来種の分布変遷など地域の自然環境の歴史を伝える貴重な手がかりとなり、多くの標本を比較すると、その種のもつ変異の程度や生活史、分布などの解明ができます。

また新種を発表するときには、新たな学名の基準となる標本が選定されます。基準標本はメートル原器のようなもので、植物の名前を調べる（同定）時の基準となります。さらに最近では古い標本からも DNA 解析することが可能になり、遺伝子の変化などを解明することもできるようになりました。植物の形や様々な情報を伝える標本は貴重な資料の宝庫と言えます。



ムジナモ (1890年)
東京都立大学牧野標本館所蔵



ウラシマソウ (2025年)
東京都立大学牧野標本館所蔵

東京都植物目録の監修に関わる 専門家からのひとこと

東京都植物目録の作成という私が長年待ち続けた機会がやってきました。現役最後の仕事として、微力ながら尽くしていきたいと思います。



東京都立大学牧野標本館
加藤 英寿 先生

東京の人と自然の関係性を再構築するためにも必要となる植物目録。待ち望まれたその作業に関わることに身が引き締まります。



東京都立大学牧野標本館
内野 秀重 先生

市民調査ニュース

情報求む！アプリで植物の分布状況を把握

刻一刻と変化する自然環境の中では、身近な植物の減少や、新たな外来種の拡大などが目まぐるしく起こっています。「東京いきもの調査団」では、こうした植生の変化を網羅的に捉えるため、アプリを用いた市民調査を行っています。さらにアプリ内では、特定の生物を探す「クエスト」などのイベントを通じ、参加者が楽しみながら地域の自然を体感し、生物多様性への理解を深める機会を提供しています。



アプリ Biome (バイオーム) の植物クエスト例

日々更新中！

『東京いきもの台帳』はこちら▶



東京いきもの台帳・植物分野ニュースレター

『TOKYOENSE』はこちら▶



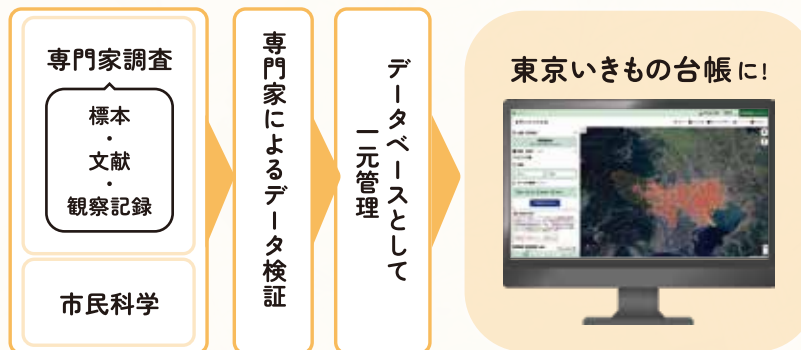
東京の生物多様性を
見える化！

デジタル版野生生物目録 東京いきもの台帳

Q 東京いきもの台帳で何がわかるの？

A 都内で、いつ、どこに、どんな野生生物がいたのか分かります。

「東京いきもの調査団」の取組成果として、**デジタル版野生生物目録「東京いきもの台帳」**を整備しています。この台帳では、いつでもどこにどんな生物がいたかを誰もが簡単に専用WEBサイトで検索し、デジタルマップ上に表示することができます。都内の自然環境や生物多様性保全を進める上で最も基礎的な情報源となります。



実際に台帳を見てみよう!



Q 東京いきもの台帳は何に役立つの？

A 生物多様性に関する課題解決へ活用されます。

活用1 環境変化の把握

台帳の検索機能を活用することで、過去から現在までの都内各地の**自然環境や生物相の変化を継続的に把握**することができます。

活用2 課題の早期発見

外来種の分布拡散などをいち早く可視化することで**課題の早期発見**につながります。

活用3 保全への活用

蓄積された情報に基づき**保全の優先度や目標**を定めるための基盤情報として活用されます。

メッシュごとの観測レコードの一覧表示やデータのダウンロードも可能



色々な種の観測レコードが見られるよ!



みんなでつくる!東京の野生生物目録

東京いきもの調査団

TOKYO Digital Wildlife Inventory

2025 活動レポート

令和8年7月発行

東京いきもの調査団
ウェブサイトはこちら



編集：株式会社バイオーム

発行：東京都環境局自然環境部計画課

東京都新宿区西新宿二丁目8番1号

TEL 03-5388-3548

登録番号 第(8)30号 環境資料 第38018号

※本資料に掲載されている生物の写真はすべて調査期間中に投稿されたものです。

みどりと生きるまちづくり
TOKYO GREEN BIZ